災害時どうしますか？

近年では、全国各地で局地的な大雨が降る数が増加の傾向にあります。
災害は、いつどこで起きるか予想できません。
自主防災組織を作り、防災活動に取り組んでいる「馬場区自治会」。
７月８日に行われた防災講座では、いざというときに役に立つ情報がたくさん紹介されました。

家族の間で災害時の連絡方法などを話あって決めていますか？

公益財団法人　日本公衆電話会
熊本支部 事務局長　扇　瑞穂さん

災害が起こると、一度にたくさんの人が被災地域に電話をかけるので、一般電話、携帯電話がつながりにくくなります。災害時にもつながりやすいのが公衆電話です。災害が発生した時に真っ先に知りたいと思うのは、家族や知人の安否。それを確認するサービスが「災害用伝言ダイヤル１７１（声の伝言板）」。災害時に、被災エリアを対象に安否情報などの録音が可能です。

平成28年４月14日に起こった熊本地震では、発生後14分後に開設し、5月31日までに約24万件の利用（ウェブ１７１含む。）がありました。

本町には16台の避難所等への特設公衆電話があります。いざという時のために最寄りの公衆電話を確認し、家族で登録する番号を決めておきましょう。

そして、和水町防災マップなどを利用し、災害時の危険箇所や避難場所、避難ルートを家族と話し合っておきましょう。

浦田　和美さん（馬場）

私は災害時伝言ダイヤル１７１を初めて知りました。実際の公衆電話を使用して１７１にかける体験をしました。

今回の講座を通じて日頃の備えの重要性を再確認しました。

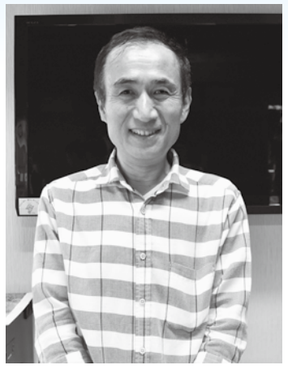
実際の公衆電話を使ってかけ方を学びました

「忘れてイナイ」１７１と覚えてください。
「Ａです。○○避難所にいます。ケガもなく元気です。」などのように録音します。

１１０番や１１９番などのかけ方もこのように行います。
停電時でも通話ができます。
覚えておくと便利です。

レジ袋で三角巾の作り方を教える防災士の柳原志保さん（馬場）

女性や高齢者も防災に参画する大切さを学びました



馬場区自治会長　坂口　幸裕さん

馬場区自治会「自主防災組織」は①総務・企画部②避難誘導部③生活部の三つの部会に分かれます。

総務・企画部は、防災訓練や防災講座などを企画し実施します。

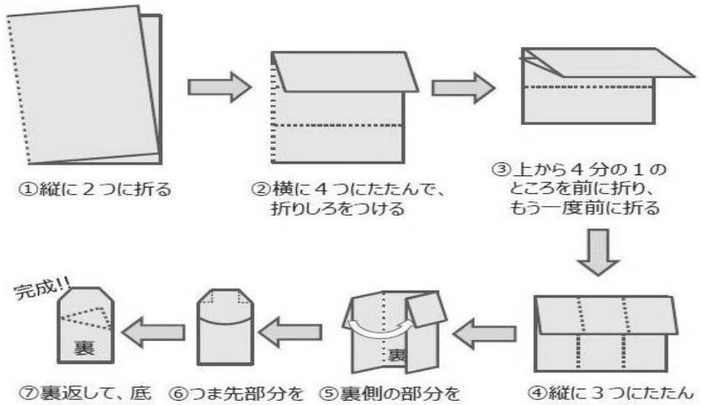
避難誘導部は、避難経路の点検、災害時の高齢者の避難支援をします。近隣数軒での相互見守り、相互脱出支援について構築する役割も持っています。

生活部は、自治会館の非常用物品の準備・補充をします。三日間40人の自治会員が過ごせるように考えています。自家発電機も揃えました。

講座の中で新聞紙スリッパ作りをしましたが、日頃から作り方を覚えておけば、非常時のスリッパという考え方だけではなく、例えば窓拭きにも使用できるとか、いろんな人の知恵を出し合って応用ができるのではと考えます。

◎スリッパがない！➡新聞紙で

〔材　料〕　新聞紙見開き１枚



新聞紙スリッパ作りを教える、菊水中の田川響己さん（日平）と柳原拓巳さん（馬場）

パッククッキング

身近にある材料を使ってポリ袋で調理する方法があります。忙しい時の一品にもなります。家族で作ってみましょう。

「ポリ袋蒸しパン」

材料
ホットケーキミックス　50ｇ…2袋
水50㎖…2袋　ポリ袋…2枚

作り方
①ポリ袋にそれぞれホットケーキミックス50ｇと水50㎖ずつ加え、こねすぎないように混ぜ合わせる。これを2つ準備する。
②混ぜたら生地を袋の端へ寄せ、中の空気を抜きながら袋の上の方でしばる。
③沸騰したお湯のなかへポリ袋ごと入れて蓋をして、弱火で15分ゆでる。
※時々ひっくり返しながらゆでるとゆでむらがなくなる。

左から　東　みよ子さん（寺山）
上川視紀子さん（中路）

おいしかったです。ポリ袋さえあれば味を変えて作れると思います。

災害時に備えて材料を常備して、日頃家でも作りたいと思います。